

全校総合的な学習の時間学習指導案

令和7年10月31日(金) 9:50～10:40

【地域研究コース・自然グループ】(被服室)
 美川中学校 長谷 哲雄、澤木 一敏 柳谷小学校 竹内 琴美
 【地域研究コース・環境グループ】(2年教室)
 美川中学校 土井内 幸太、田坂 優佳 仕七川小学校 船本 裕紀
 【地域研究コース・郷土料理グループ】(1年教室)
 美川中学校 水本 允輔、青野 藤壽 面河小学校 日野 裕太
 【地域貢献コース・観光グループ】(図書室)
 美川中学校 佐藤 晴紀、川西 奈緒

1 単元名 「Y・M・Oで再発見！」

2 単元の目標

自分たちが暮らすY・M・Oの自然、環境、郷土料理、観光についての探究的な活動を通して、それらと自分たちとの関わりやY・M・Oの特色を理解することができる。また、Y・M・Oのためにできることを考え、自ら行動し、発信することができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① Y・M・Oの人、もの、自然と関わる探究的な学習の過程において、Y・M・Oの魅力に気付いている。 ② Y・M・Oの魅力が人々の努力や工夫によって支えられていることについて理解している。 ③ 自分たちが暮らすY・M・Oの歴史、文化、産業、偉人、及び自然等についての探究的な活動を通して、それらと自分たちとの関わりやY・M・Oの特色について理解している。	① Y・M・Oの人、もの、自然の中から問いを見出せている。 ② 問いの解決に向けて自ら集めた情報を整理・分析して、まとめ・表現している。 ③ Y・M・Oの現状から課題を見出し、解決に向けて必要な情報を収集している。 ④ 目的に応じて比較、分類、関連付け、焦点化して考える力、相手や手段に応じてまとめ表現する力を身に付けている。	① Y・M・Oの人、もの、自然についての探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。 ② 互いの良さを生かしながら、自ら積極的にY・M・Oに貢献しようとしている。 ③ Y・M・Oのためにできることを考え、自ら行動し、発信しようとしている。

4 指導観

(1) ねらいや指導内容について

久万高原町は、旧1町3村が合併し誕生した県内最大の面積を誇る町である。本校は、旧3村を校区としており、西日本最高峰の石鎚山をはじめ、御三戸嶽、大川嶺、面河溪、四国カルストなど素晴らしい景観が広がっている。また、上黒岩岩陰遺跡や岩屋寺などの旧跡を有する恵まれた環境の中にある。

しかし、近年は急速な過疎化・少子高齢化が進行しており、本校の生徒数も著しい減少傾向にある。また、幼少期から校区内で育った生徒のみならず、途中で移住をしてきた生徒、校区外から通う生徒と実態は多様である。そこで、学校教育目標「美川中で再発見～自分が好き、人が好き、Y・M・Oが好き～」の実現に向けて、自分の生活と地域の人々や地域社会についての探究的な学習を目指した全校で取り組む時間、全校総合を設けた。本単元では、Y・M・Oの自然、環境、郷土料理、観光についての探究的な活動を通して、それらと自分たちとの関わりやY・M・Oの特色を理解させ、Y・M・Oのためにできることを考え、自ら行動し、発信していく力を育てることが本単元のねらいである。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

本校区は、4つの小学校区で構成されており、全て小規模校である。各小学校の総合的な学習の時間では、地域の特色に応じた学習を進めていたり、移住をしてきた生徒のために、地域について知ることから学習を進めたり様々である。そのため、各小学校区の地域に対する知識や理解はある程度身に付いていると考えている。また、出身小学校区のみならず、Y・M・Oに対して肯定的な意見をもつ生徒が多い。これらのことを基盤にして、本単元を展開していく。

しかし、中には、肯定的な意見をもつことのできない生徒もいる。もてない理由として、「校区に住んでいないから。」「この地域に対する思いが弱いから。」「観光地が少ないから。」などが挙げられた。本単元では、積極的にゲストティーチャーやフィールドワークを有効に活用し、様々な学びの場を設定してきた。これらの活動を通してY・M・Oに対する魅力について知り、Y・M・Oへの誇りと愛着を育むことができると考える。

5 研究主題との関わり

自ら考え、ともに生き生きと伝えあう子どもの育成
～ふるさと（Y・M・O）に根差した学校づくりを通して～

本単元では、テーマを「ふるさとを愛する」とし、探究課題を「地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々」と「地域の再生に向けて努力する人々と地域社会」としている。Y・M・Oについて4つのテーマでグループ分けを行い、調べ学習を行う。調べ学習で見えてきた課題や疑問を自らの探究テーマとし、解決に向けた仮説の設定や有効的なゲストティーチャーやフィールドワークの活用を行っていく。Y・M・Oに暮らす人々やY・M・Oに関わっている人々との交流を通して、地域に対する理解が深まっていくと考える。また、「情報の収集⇒課題の設定⇒情報の収集⇒整理・分析⇒まとめ・表現」の探究的な学習が展開することで、総合的な学習の時間における資質・能力も育成され则认为る。

これらの活動を通して、本校の研究主題に迫りたい。

6 他教科との関連

教科等との関連	
各教科	国語 社会 数学 理科 英語 技術・家庭 保健体育 美術 音楽 ・言語活動 ・身近な地域調査 ・統計 ・生物分野 ・調理実習 ・校歌 など
道徳	1 社会の一員として互いを認め合い、共に生きていこうとする実践的な態度を育てる。 2 多様な体験活動を通して、積極的に他者と関わり、自らの生き方を考えさせる。
特別活動	1 総合的な学習の時間で学習したことを学校行事や生徒会活動で実践し、学習の達成感をもたせる。 2 生徒一人一人が所属感をもち、個性や創造性を発揮できる活動の場を設定する。 3 諸活動を通して、社会の一員としての在り方を学ばせ、自己表現を目指す基礎を養う。
その他	1 地域特有の学習環境を積極的に活用し、地域の教材化を行う。 2 自己評価・相互評価や活動状況の評価などにより、学習に対する意欲や態度を記録する。

7 指導と評価の計画（全 35 時間）【本時 27/35】

小単元（時数）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 様々な角度からY・M・Oを見てみよう。（6）	- 全校総合Y・M・Oについて理解し、今後の活動への見通しをもつ。 - 各グループで情報を収集する。 - 収集した情報を元に探究テーマを決定する。	②		①	発言
2 探究テーマを解決しよう。（21） （本時）	- 決定した探究テーマを元に仮説や調査方法を考える。 - 活動計画書を作成する。 9月の体験交流会に向けて発表資料を作成する。 - これまでの取組を体験交流会で発表する。 - フィールドワークやゲストティーチャーから情報を収集する。 - 収集した情報を元に仮説に対する答えをまとめる。 - 中間報告に向けて発表資料を作成する。 - 中間報告を実施する。		①	①	ワークシート①
3 Y・M・Oの魅力を発信しよう。（8）	- Y・M・O発表会へ向けて発表資料を修正する。 - 観光名所や道の駅、支所などに取組を発信する。 - Y・M・O発表会で今年度の取組を発表する。 - 来年度に向けて今年度の取組をまとめる。	①	②	③	計画書 発表資料①
			②	③	発言 振り返りシート①
		①	④	③	発表資料②
				④	発言
		③			発表資料②
			④	③	チラシ
				④	発言
					振り返りシート② 発言

8-(1) 本時の指導【 地域研究コース・自然グループ 】

美川中学校 教諭 長谷 哲雄 (中学校 T 1)
 教諭 澤木 一敏 (中学校 T 2)
 柳谷小学校 教諭 竹内 琴美 (小学校 T 1)

(1) 目 標

- Y・M・Oの豊かな自然について調べたり伝え合ったりすることで、自分たちが住む地域のすばらしさに気付き、ふるさととして誇りがもてるようになる。
- Y・M・Oの自然を有効に活用したり保護したりしている取組に学び、地域のために自分たちができることを考え、行動できるようになる。

(2) 準備物

総合ファイル、タブレット端末

(3) 評価規準 《主体的に学習に取り組む態度》

	十分満足 (A)	おおむね満足 (B)
中学校	自分以外の意見や考えを生かしながら、課題解決に向けての具体的な方策を見つけ、他者にアドバイスしようとしている。	自分以外の意見や考えを参考にしながら、感想や意見を発表しようとしている。
小学校	中学生の発表やゲストティーチャーの助言を聞き、自分の発表と比較しながら、意見や感想を発表しようとしている。	中学生と自分の発表を比較しながら、感想を述べようとしている。

(4) 本時の展開

	時間	学習活動 □中学生の動き・■小学生の動き	○指導上の留意点	◎評価規準 (□中学校・■小学校評価方法)
導入	5	○ 昨年度の取組を振り返り、学習のつながりを確認する。 □ 昨年度の成果と課題を発表する。 ○ 本時の内容を確認する。	○ 学習のつながりを意識させる。(中 T 1) ○ 本時の流れを理解させ、主体的に授業に臨ませる。(中 T 1)	
		四国カルストの自然のすばらしさを効果的に伝えるには、どうすればいいだろう。		
展開	15	○ 四国カルストの自然について、小中でそれぞれが調べた内容を発表する。 ■ 自分たちが興味をもった内容について調べたことを発表する。 □ 小学生の発表を聞いて、意見や感想を伝える。	○ どう工夫すれば、四国カルストの魅力が伝わるか、という視点で意見交換をさせる。(中 T 1)	□ 小学生の意見や取組を尊重しながら、具体的で建設的なアドバイスができたか。(発表態度)
	20	□■ 必要に応じて、ゲストティーチャーから助言を求める。 □ 「四国カルストの自然」・「四国カルストの自然を生かした取組」について調べたことを発表する。 ■ 中学生の発表を聞いて、意見や感想を伝える。	○ 児童・生徒に声掛けを行いながら、自分の意見や感想を表出できるよう支援する。(中 T 2、小 T 1)	■ 自分の発表と比較しながら、意見や感想を発表することができたか。(発表態度)
	5	□■ 必要に応じて、ゲストティーチャーから助言を求める。 ○ ゲストティーチャーや参観者からの意見・感想を聞く。	○ 地域の人々の思いや他者からの評価を今後の活動に生かすようにさせる。(中 T 1)	
まとめ	5	○ 今後の活動予定を確認する。 □■ ワークシートに、本時の振り返りをまとめる。	○ 今後の発表に向けての意欲の向上・継続を促す。(中 T 1)	□■ 自分以外の意見や考えを生かして、課題解決に向けた方策を見出せたか。(ワークシート)

〈研究の視点〉

- 互いの発表に関して意見交換することにより、地域のすばらしさに気付き、ふるさとに誇りがもてる態度の育成に資することができていたか。
- ゲストティーチャーから助言をもらうことで、自分たちにできることを考えられていたか。

8-(2) 本時の指導【 地域研究コース・環境グループ 】

美川中学校 教諭 土井内 幸太 (中学校 T 1)
 教諭 田坂 優佳 (中学校 T 2)
 仕七川小学校 教頭 船本 裕紀 (小学校 T 1)

(1) 目 標

- Y・M・Oの自然環境について調べ、自分たちの住む地域の環境について知る。
- Y・M・Oの自然環境を守るための行動を考えて実践しようとする。

(2) 準備物

総合ファイル、タブレット端末

(3) 評価規準 《主体的に学習に取り組む態度》

	十分満足 (A)	おおむね満足 (B)
中学校	小学生の発表を聞いて、内容や発表の方法の改善点や疑問点を指摘しながらアドバイスしようとしている。	小学生の発表を聞いて、内容や発表の方法について感想を伝えたり、疑問点を指摘したりしようとしている。
小学校	中学生の発表を聞いて、分かったことや感想を発表したり、疑問点を質問したりしようとしている。	中学生の発表を聞いて、分かったことを発表しようとしている。

(4) 本時の展開

	時間	学習活動 □中学生の動き・■小学生の動き	○指導上の留意点	◎評価規準 (□中学校・■小学校 評価方法)
導入	5	○ これまでの活動の振り返りと本時の活動の確認をする。 □ 昨年度の成果と課題を発表する。	○ 主体的に授業に臨めるよう、意識付けをさせる。 (中 T 1)	
		Y・M・Oのふるさとの森林や河川の水質について分かりやすく伝えるには、 お互いの発表をどう生かせばよいだろうか。		
展開	30 10	○ Y・M・Oの自然環境について調べたことを小・中それぞれ発表する。 ■ ふるさとの森林について調べたことを発表して、中学生や先生からのアドバイスを聞く。 □ 小学生の発表を聞き、質問や意見、今後の活動のアドバイスを提案する。 □ 河川の水質調査の結果を発表して、小学生の感想や質問、先生からのアドバイスを聞く。 ■ 中学生の発表を聞き、発表に対する感想や疑問点、意見を発表する。 ○ 調べたことを分かりやすく伝えるために、改善点を話し合い、発表する。 □■ もらった質問や意見から、活動やまとめ方について、どのように改善していくか話し合い、今後の計画を発表する。	○ 質問や意見が改善につながることを自覚させ、それぞれの発表に対する自分の意見がもてるよう、発表をしっかりと聞くよう促す。 (中 T 1) ○ それぞれの改善点を明確にするために、質問や意見にはどのような意図があったか確認する。 (中 T 1・2、小 T 1)	□■ お互いの発表に対して、疑問点をもちながら聞き、アドバイスをするのができたか。 (発表態度) □■ アドバイスから改善点を考え、より良い方法について話し合うことができたか。 (発表態度)
まとめ	5	○ 今後の活動予定を確認する。 □■ ワークシートに本時の振り返りをまとめる。	○ 本時の活動を振り返り、今後の活動へ意識を向ける。 (中 T 1)	□■ 今後の活動について具体的な見通しをもつことができたか。 (ワークシート)

〈研究の視点〉

- 自然環境を調べることにより、児童生徒の視点から地域課題を発見する活動になっているか。
- 意見交換を行うことで、地域の自然環境を守るための行動を考え、実践方法について活動計画に取り入れることができていたか。

8-(3) 本時の指導【 地域研究コース・郷土料理グループ 】

美川中学校 教諭 水本 允輔 (中学校 T 1)
 教諭 青野 藤壽 (中学校 T 2)
 面河小学校 教諭 日野 裕太 (小学校 T 1)

(1) 目 標

- 新しい郷土料理を考案し給食で提供することで、郷土の食材の良さを知ってもらう。

(2) 準備物

総合ファイル、タブレット端末、試作品、試食評価シート

(3) 評価規準 《主体的に学習に取り組む態度》

	十分満足 (A)	おおむね満足 (B)
中学校	自分たちが考案した郷土料理について、自分自身で良い点、改善点を見出し、さらに良いものにしようとしている。	自分たちが考案した郷土料理について、良い点、改善点を見出そうとしている。
小学校	自分たちが考案した郷土料理について、中学生の意見も参考にしながら良い点、改善点を見出し、さらに良いものにしようとしている。	自分たちが考案した郷土料理について、中学生の意見も参考にしながら良い点、改善点を見出そうとしている。

(4) 本時の展開

	時間	学習活動 □中学生の動き・■小学生の動き	○指導上の留意点	◎評価規準 (□中学校・■小学校評価方法)
導入	10	○ 本時の内容を確認する。 ○ 今までに調べてきた食材について、紹介し、地域食材を生かした新郷土料理の紹介をする。 □■ 今までに調べてきたことや新郷土料理の特徴を発表する。	○ 本時の流れを理解させ、積極的に意見を出すよう意識させる。 (中 T 1)	
新郷土料理開発のために必要な改良点は何だろうか？				
展開	20 15	○ 新郷土料理の試食を行い、自己評価する。 □■ 評価項目について文言評価を行う。 ○ 評価した内容を発表し、共有する。 □■ 項目ごとに発表をしていき、改良点についてまとめる。 ○ 栄養教諭からの注意点を踏まえて、給食で提供するために必要な改良点について意見を出し合う。 □■ 出てきた改良点も合わせて、給食で提供するためにどのように改良すれば良いか考え、意見を発表する。	○ 改良点を中心に評価させる。 (中 T 1) ○ 評価項目について説明し書かせる。 (小 T 1・中 T 2) ○ 給食提供では、加熱調理が必要であり、個数も多くなることを前提に簡単な工程になるように考慮させる。 (中 T 1)	□■ 自分自身で試食の評価を具体的に記述しようとしているか。 (ワークシート) □■ 自らより良いものにするために意見を発表している。 (発表態度)
まとめ	5	○ 今後の活動予定を確認する。 □■ ワークシートに、本時の振り返りをまとめる。	○ 今後の発表に向けての意欲の向上・継続を促す。 (中 T 1)	□■ 自分以外の意見や考えを生かして、課題解決に向けた方策を見出せたか。(ワークシート)

〈研究の視点〉

- 地域食材を生かした料理を考察する過程において意見交換をすることで、地域特有の食材について深く知り、その良さを生かそうとすることができていたか。

8-(4) 本時の指導【 地域貢献コース・観光グループ 】

美川中学校 教諭 佐藤 晴紀 (中学校 T 1)
教諭 川西 奈緒 (中学校 T 2)

(1) 目 標

- 第三者からの意見を基に、互いに意見を出し合いながら、より良い観光マップを考えようとする態度を養う。
- 第三者から出た多様な意見や考えを受け入れて理解しようとする態度を養う。

(2) 準備物

総合ファイル、タブレット端末

(3) 評価規準 《主体的に学習に取り組む態度》

十分満足 (A)	おおむね満足 (B)
ゲストティーチャーをはじめ、自分と異なる意見や考えを受け入れ、自分たちで建設的な意見を出し合いながら、より良い観光マップを作成しようとしている。	ゲストティーチャーの意見や考えを元にしなが意見を出し合い、より良い観光マップを作成しようとしている。

(4) 本時の展開

	時間	学習活動	○指導上の留意点	◎評価規準
導入	3	○ これまでの活動を振り返る。		
	3	○ 本時の流れを確認する。	○ 本時の流れを確認させ、見通しをもって活動させる。(T 1)	
		より地域の魅力を発信するための観光マップにするにはどうすればいいだろう。		
展開	10	○ 考えた観光マップを発表する。 これまでの活動を踏まえて、プレゼンテーションを用いて発表をする。	○ 聞き手を意識して発表させる。(T 1)	
	14	○ ゲストティーチャーの方に意見をもらう。	○ 観光マップに出て来た意見をまとめさせる。(T 1・2)	◎ 異なる意見や考えを受け入れようとしているか。 (観察・ワークシート)
	10	○ 意見を元に観光マップを見直す。 拡大印刷された観光マップを元に、KJ法を用いながら見直していく。	○ ゲストティーチャーの意見を基に、より地域の魅力を発信させるために、互いに意見を出させる。(T 1・2)	◎ より良い観光マップを考えようとしているか。 (観察)
	5	○ 見直した結果を伝える。	○ 改善した理由も踏まえて発表させる。(T 1)	◎ 見直した観光マップを発表することができたか。 (発表態度)
まとめ	5	○ 本時の振り返りと次の活動の確認をする。	○ 今後の発表に向けての意欲の向上・継続を促す。(T 1)	

〈研究の視点〉

- ゲストティーチャーに意見をもらうことで、改良点に気づき、積極的に観光マップをよりよくしようとすることができたか。
- KJ法を用いることで、意見の多様性に気づき、観光マップ作成に生かすことができたか。